

令和4年度第2回子ども・子育て会議 未来子育て部会 会議録

令和5年2月10日(金) 10:00~11:30
今治市役所 第1別館10階 101会議室

令和4年度第2回子ども・子育て会議 未来子育て部会 会議録（概要）

- 1 日時 令和5年2月10日（金） 10:00～11:30
- 2 会場 今治市役所 第1別館10階 101会議室
- 3 議題
- ・今治版ネウボラ拠点施設整備の基本構想について
 - ・その他
- 4 出席者
- 【委員】5名
泉浩徳委員（部会長）、龍田三津子委員、越智瑞啓委員、村上ひかる委員、田窪良子委員
- 【事務局】8名
こども未来政策局長、こども未来課長、ネウボラ政策課長、保育幼稚園課長、健康推進課長、ネウボラ政策課長補佐2名、ネウボラ政策課ネウボラ政策係主事
- 5 欠席者
- 【委員】1名
八木正史委員

5 会議内容

部会長	当会議の開会 出席者は部会委員6名の内、5名出席。1名欠席。「今治市子ども・子育て会議条例第7条第2項」に規定する、半数以上の出席要件を満たしており、本会議が成立している旨報告。 会議録署名委員に越智瑞啓委員を指名。
事務局	資料1・2により説明。（資料2・3まで） ・市民ニーズの調査結果について説明。 ・今治版ネウボラ拠点施設整備の基本構想についての現状と課題、施設整

	備の方向性、基本的な考え方について説明。
部 会 長	説明に対する意見・質問を求める。
	資料 2 の出生数ですが、未婚の女性も入ってらっしゃるんですか。よく完結出生数とか最近出てくるんですけども。
事 務 局	未婚問わず、市民課に届けられた出生数をカウントしている。
部 会 長	結婚後のその関係と出生数みたいな話をよく最近出てくるので、そのあたりもまた教えていただけたらと思います。
越 智 委 員	アンケートの結果、具体的にどのようなものを作りたいと考えているのか。ネウボラに関わる保健師や助産師などの処遇改善についてはどうか。
事 務 局	今回のアンケートでは、子育て世帯からどのような機能が欲しいかというところを集約し、今後必要な機能に対してどのようなスペックを持つかという部分について、基本計画を次年度取り組む中で、様々な利用者の方からワークショップを開いたりしながら具体的な内容に基づいて、施設の規模感など詳細をつめていくことになります。今回基本構想としては市として提供できる機能というのをまずまとめさせていただきました。アンケート結果自由意見も含めて、資料として提供する中でご覧いただければと思います。 人材育成、人材確保という部分については、ソフト面の充実というのも非常に大切でございます。様々な支援サービスの増加、拠点の増加、それを支える人材として、確保という面に関してはなかなか至っていない部分も多いですが、人材育成という部分では、部会長とも連携しながら取り組んでいきたいと思っています。処遇改善も合わせてどんな形になるか、課題として認識させていただいています。
田 窪 委 員	WEB アンケートについて、年代や居住地によって傾向がでてくるのではと思うので参考までに教えてもらいたい。地域でのニーズのありかたというのが変わってくるのではないか。
事 務 局	年代、地域ごとにクロス集計、ゾーニング別というのは集計しておりませんが、地域において求める機能というのは多々あるかとおもいます

<p>龍田委員</p>	<p>ので、深掘りできるよう調査研究していきたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料2の老朽化と点在にある地図は旧市内だけですよね。島しょ部や陸地部周辺部など市全体を網羅して基本の構想を練っていただく方がいいのではないか。</p>
<p>部会長</p>	<p>確かに、市内広域にわたって子育て支援関係施設があり、利用していただきやすいように情報発信も必要になってくる。その中で、同じ機能を持った施設がどうしても市内中心部によっており、そのあたりをうまく複合化することによってという部分があります。当然、市内各所のそれぞれの施設も老朽化の問題があります。その中で、今回各地域に大きな総合公園がある中で、大型の遊具のリニューアルなども子育て環境の改善ということで取り組んでいます。</p>
<p>事務局</p>	<p>基本方針として、つどい・つながり・はぐくむということで、おそらくネウボラの施設に来る保護者や子どもは元気なイメージがある。ここに来られないような家庭を「支える」ようなイメージが抜けている気がする。そういった貧しい、ここに連れてこられない、母子家庭のような方に対する支援についてはどうお考えなのか。</p>
<p>部会長</p>	<p>そういった支援を求めるようなお母さん方を早期に発見する必要があるが、手を挙げていただければ当然セーフティネットの目で行政の方がしっかり手を差し伸べて支えていくということになるが、その潜在的な方々にどうアプローチするかというのは、非常に我々としても取り組みが難しいと課題認識しております。</p> <p>そういう意味で各拠点のご利用と含めて、できるだけ多くの方が子育てのために施設をご利用いただくため、子どもの健康診査や健康相談などがすべてこの施設でできることとなりますので、100%ではないにしてもほぼ必ずこの施設ご利用いただくこととなります。</p> <p>そこを通じて、そういった方の早期発見、家庭への支援というのに結びつけていく、スクリーニングの役割を果たせるのではないかと。そのために、できるだけ多くの子育て家庭が集っていただく、そういった入口にしたいそして、支援サービスにつなげたいと思いこの取り組みをさせていただいております。</p>
<p>部会長</p>	<p>建物だけでなくアウトリーチによりそういうところに届くようなサー</p>

健康推進課長	<p>ビスも考えていただけないかなと思っていますのでお願いします。</p> <p>現在も生まれた赤ちゃんの全戸訪問を行っており、出産した病院から心配なお子さんやお母さんがいた場合には連絡が入り、訪問や声掛けなどを積極的に行っている。ネウボラの施設ができ集約されることにより、より連携が取れ、手厚い支援が行うことができると考えている。支所においても保健師が配属されているので、そこから必要な支援へとつないでいければと考えています。</p>
田窪委員	<p>補足として、資料 2-2-(3)のネットワーク図の中に「子ども食堂等」とあるが、地域食堂連絡協議会が立ち上がっておりそこから情報が上がってくることが多い。特に鳥生校区はうまく連携ができていて、民生委員、地域、ネウボラ政策課にも繋がる良い例ができています。この図がうまく機能すれば、いいネットワークが作れるのではないかと思う。社協の担当者も地域食堂連絡協議会には絡んでくれている。</p>
部会長	<p>このネットワークの中にできれば社協あたりも入れていただけないかなと思っています。</p> <p>引き続き事務局より説明を求める。</p>
事務局	<p>資料 2 により説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備えるべき機能、施設構成、候補地の選定、管理運営、概算事業費、整備スケジュールについて説明。
部会長	<p>説明に対する意見・質問を求める。</p>
越智委員	<p>「待つ」というような施設になってしまわないか心配。上辺だけでなくどんどん中に入っていけるような責任のとれる人が必要。</p> <p>集いの前の「行きますよ」ということが伝わる表現が足されればどうかなと思いました。</p> <p>政府が異次元の子育て政策をとという中で、お年寄りとのかかわりも大切なのではないか、例えば老人福祉センターなども使えるのではないかと思う。</p> <p>候補地の選定については、駐車場をしっかりと確保してほしいと思います。</p>

<p>こども未来政策局長</p>	<p>各委員の皆様の懸念というのが、市内中心部に施設を整備し、行政区域が広大であると、地域はどうなるのという部分かと思います。当然地域への目配りが絶対的に必要であるということは認識しておるということは前提として申し上げたいと思います。</p> <p>現在の子育て相談というのは、ネグレクト・DV・発達支援など非常に多岐にわたっている。この相談窓口が各課にバラバラであったのを令和4年4月よりネウボラ政策課に一本化できたというのがまず1つのステップであります。窓口には、専門職員を配置しており、アウトリーチとプッシュ型の支援を積極的に展開している。</p> <p>本当はこれらの人材を各支所各地域に備えることができれば良いが物理的に難しい。現在のネウボラ政策課の窓口にはデリケートな相談をお受けできるような相談室等の設備も整っていない。そこで、日吉小学校へ中央保健センターとの統合も視野にワンストップで相談できる拠点を1つ作らせていただきたい。同時に、それぞれの地域で各保育所に保育士がおり、ベテランの職員は相談員としてかなりの資質を持っているので保育所・幼稚園を相談サテライト、入り口として活用する。また具体的な手段としては、4月から各支所と本庁各課をつなぐオンライン相談窓口が開設されます。そういったIT等も活用したうえで、市域全体をとりこむ相談体制の核となるものを作ることが今回の趣旨でございます。</p>
<p>事務局</p>	<p>支えるという観点については、今治市が目指すネウボラの非常に大事な根幹であろうと思います。基本理念として、やはりすべての子育て世代に寄り添った支援、これが何よりも大事であるということを根幹に置いた中で、ハードとしての箱物のキャッチコピーをつどい・つながり・はぐくむとさせていただいたところでございます。その辺り、そもそもの今治市の子育てが目指すべき理念として支える観点というのを、本編の方で、もう少し表現させていただけたらなと思います。</p> <p>老人との関わりも大事だよという中での老人福祉センターと合わせた施設について、集う機能として、交流機能に、やはりおじいちゃんおばあちゃんも出て来られるような仕掛けというのをあわせ持って全世代を支援できるような形になればいいのかなというところでその理念を取り込ませていただけたらと思います。</p> <p>駐車場の問題はかねてより、お母さん方との座談会する中でも多く言われておる部分であり、可能な限り、駐車台数確保できるような形で、検討を進めていきたいと思っておるところでございます。</p>

部 会 長	高齢者施設だけでなく、障がい者施設もありますので、その辺りもぜひインクルーシブな交流をしていただけないかなと思います。
村 上 委 員	今治市が住みやすい田舎ランキング 1 位になったと聞きましたが、移住者は島しょ部に多い気がします。人口もだんだん減少しているが、本当に住みよい街なら子どももたくさん家族で移住してくれるんじゃないかなと思います。また、ひきこもりの子どもをどれだけ把握してくれているのか、子ども食堂でも、「本当に来てほしい子には来てもらえていない」という声を聞く。そういう子たちを助けてあげられたらいいのにとします。
部 会 長	ひきこもりの子に対して、本当にアウトリーチして何とかスモールステップで支援をしていただけたら。それにはやはり、意識をちょっと変えていかないと難しいなと思います。まち全体で支えるような仕組みがあるんだろうと思いますが。
事 務 局	第 3 の居場所として子どもたちがいかに過ごせる場所を作っていくか。この施設ができたからそういった方々が集ってくれるわけでは決してないと思うが、そういうところもあるんだよ今治市は子育てに対して高い意識を払っているよというランドマークになれば、市全体で子育て環境が充実する意識が高まるという中で、そういった支援に少しでも触れやすくなるのではないかなと思っています。
健康推進課長	市では自殺対策として 5 年 10 年ぐらい前から、計画を立てて取り組んでおります。自殺をする方の中には、ひきこもりをされている方が多くなっていて、子どものひきこもりだけでなく、8050 問題などもあり今後また計画を立てていくような形になっています。相談があれば電話での繋がりがりっているのができておるので、そこで把握ができるが、その繋がりを保持していない方が一番問題なのかなと思っています。今後、繋がりをつくれるような対策を検討していければいけないと思っています。
越 智 委 員	出生数はがくと減っているが、相談件数は跳ね上がっている。人口減少を社会問題ととらえて今治市も成功例となるような政策を展開していくことが大事だと思います。
部 会 長	ヤングケアラーや海外の移住者に対する対策などはありますか。

<p>事務局</p>	<p>ヤングケアラーについては 4 月にヤングケアラーコーディネーターを配置し、実態調査に着手いたしました。各教職員の方へ市内網羅して調査を行った結果、市内では 15 件、ヤングケアラーと思われるということで報告を受けました。</p> <p>ただ、愛媛県においては、もっと高い率で独自の抽出調査した結果出ておりますので、市の中でそのギャップがあるということは、まだ学校現場でも潜在的に把握できていない子どもたちがまだいるんじゃないかと懸念しております。そのためにアウトリーチとして、教育だけではなく、家庭の背景も踏まえて、家庭支援に我々が出向いていくので、情報連携させてくださいというような取り組みを新年度強化するように考えております。</p> <p>海外の問題、技能実習生、造船関係等で技術を持った方も含めてたくさんいらっしゃっています。そういった方々はやはり言葉の壁という中で支援が必要な場合には、国際交流協会のお力を借りながらやっている部分はあるんですけども、やはり様々な言語ございます中で一括的に対応が難しい。この部分について行政の遅れは否めない感じでございます。</p>
<p>龍田委員</p>	<p>箱物を作るのと同時に、学校や保育所、幼稚園などいろんなところにアンテナを張っていただいて、やっぱりそこが親と接触する一番近いところなのでちょっとおかしいなっていうのは必ず報告したりとかそういう話ができるような、体制づくりが大切。ここ行けば、今治市の大きなネウボラの施設に繋がるよっていうところを必ず各支所なり、いろんなところに作っていただければありがたいかなと思います。</p> <p>朝倉にはバスも来ておりませんので、車じゃないと移動ができないような状況なので、やはり駐車場の確保はしていただきたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>おっしゃる通り各支所に保健師も配属して特に支所地域の中ではかなり子どもの数も限られた中で、それぞれの保健師さんが子どもの実態というのを非常によく把握して、盛んにいろんなアウトリーチしていただいております。</p> <p>もちろんネウボラ拠点に来れば何に対しても、ワンストップで窓口になっておりますので、繋がりが無い方に対しては、ネウボラに来さえすれば、何らかの支援というところに伴走型で繋がっていくというところで、拠点と支所のサテライト機能っていうのは、もうこれ一体不可分で進めていく。それを支えていくための、やっぱ人材の確保育成というのも併せて考えさせていただきたいと思います。</p>

<p>田 窪 委 員</p>	<p>そしておっしゃるように駐車場の確保については、座談会でお母さん方とのいろいろな意見交換会をする中で、かなり言われていらっしゃる実態がございます。平面で駄目なら、地下化、立体化、そういった利用希望に沿う形で、確保できる台数っていうのを精査しながら取り組んでいきたいと思えます。</p> <p>やはりソーシャルワーカーとか、臨床心理士とか職業名で、お伝えすると、なかなか仕事の中のイメージがつきにくいかもしれないんですけど、その何をコーディネートする人なのか、その検査をして、どうすれば、この子がもっとよりよい方向に行くのかとか、一步前のことまでできるようになる研修が必要だと思えます。最初は、私たち支援者もみんな初心者なので、そういったものと、あとかかわらせてもらう方から教えていただくことってたくさんありました。</p> <p>ネウボラができたからすぐにすごい人材がそろっているってことはないかもしれないけれども、何年かかっても質の向上というのを目指していただきたいと思えます。</p> <p>それから外国ルーツの子どもたち、保護者についての説明をすると、伯方島は、去年の出生率の5人に1人が外国ルーツということで、その子どもたちが就学前に、どれだけのことを地域でやっておけば、小学校に上がったときに、親御さんも苦労しない。本人たちも、日本語の教育の中で、日本人と同じように培っていけるかというのは、すごく当面の大きい課題です。私たちも繋がりたくてもつながれない人達の中に、外国ルーツのお子さんを持つ親御さんもいらっしゃって、やっぱり運転免許を持っていない。アクセスって本当大事なんだって思うんですね。例えばバス。市営バスはないですが、何かしらコミュニティバスとか、そういったアクセスがあれば本当は拾いたい人も拾える。それこそデイサービスの送迎車とか、活用できればどんなにいいだろうってよく思えます。</p> <p>それから、何らかの事情によって、実の親御さんが育てられないケースというのがあって里親制度を活用して、ご家庭の中で育てられているようなどんな環境の、どんな立場の子たちも、ここに来れば安心して過ごせる、どんなよう養育者であっても繋がることのできるっていうところは、お含みおきいただきたいなと思えました。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>バスについては、路線の縮小が行われており、社旗実証的にコミュニティバスを運営するという形で代替策の検討がされておるところでございます。市としても交通戦略というのを非常に大事に考えておりまして、今回</p>

	<p>コンパクトプラスネットワークでまちなか再生の一環としてそういった構想も含みつつ持続可能なまちの在り方というものの検討を進めることとなっております。その1パーツがネウボラであり、施設とをつなぐ交通ネットワークのあり方の見直しというのは今後、急速的に進んでいくのかなと思っております。</p> <p>たくさんのお話の中でやっぱり人の資質の向上という中で言いますと、支援者側の教育、また親教育の両面から人材育成。まず我々としてもできるところから手を打たしていただきたいという中で、冒頭も申し上げましたけれども、泉会長と一緒に、一つ一つこれは長い時間かけて継続的に、取り組むべきものとして、どんどんリニューアルしながら考えさせていただけたらと思います。</p> <p>また里親に関わる部分についても、非常にセンシティブな問題であり、県の児童相談所が窓口となって里親制度のいろいろな啓発なり、やっておりますがこれはうちのネウボラとも一体的に支援の対象になってこようかと思っております。そういった方々にも分け隔てなく過ごせる場所という中で、先ほどお話がありましたけれども、ダイバーシティでインクルーシブなっていうようなキーワードに対しても配慮できる施設っていうのは、優先的な課題として位置付けさせていただこうと思います。</p>
越智委員	<p>支援者教育について、こども家庭庁ができて、保健師や助産師さんが担う場合に資格を取らずという話が今進んでおります。どんな授業とったらいいのか確認しておかないといけないなと思います。</p>
部会長	<p>働く環境などやはり経済的に安定するのが一番親にとって必要であって、そういうところの支援というか、専門職の専門研修もあるんですけども、それも含めて、やっていく必要があるんじゃないかなと思います。まず働くところが安定して、企業があっってお金が入ってきて、家庭が安定している。まずは親支援だと私は思っているんですけど。そのあたりの考えをちょっとお聞きしたいなと思います。</p>
事務局	<p>これまで福祉的な観点からの子育てには力を入れていただいておりますが、今回、様々な経済的支援を拡充させております。国の方の施策として、子育てに対する経済的支援をうたわせていただいている部分で、福祉のサービスとあわせて、経済的支援というものに力を入れて参りました。ただやはり、経済面から働く場所という中で、まず安定した所得があっこそ初めて結婚ができて、子どもを産み育ててと言う部分について</p>

	<p>では、なかなか産業界の方に対するアプローチというのが難しい環境ではございました。</p> <p>ただ国の方も三本柱の一つとして、働き方改革という観点から、男性の育児参加など、企業の方に発信するような、ようやく変わってきましたという中で愛媛県においても同様に、市内企業に対する、そういった啓発活動に着手するということでございます。今治市においては中小企業、たくさんございまして、なかなか賃金アップというような世の中の流れの中、どこまで一緒になってというところがあるかと思えますけれども、必ずしも国全体がようやくシフトしたというところもありますので、福祉分野だけに限らず、社会全体でどう子供を育てていくか。そういう目で政策の方を今後、国の子ども家庭庁の動きとあわせて、市の方としても、順次取り組んでいかなければならないのかなと思っております。</p>
部 会 長	<p>その他について説明を求める。</p>
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構想の素案について意見を反映し、2/16（木）の子ども・子育て会議で改めてお諮り基本構想の公表に進めていく。 ・来年度の基本計画で、市民の意見も多く取り入れ、機能や配置など詳細な計画を策定したい。 ・プロセスの中で、未来子育て部会で途中経過等お伝えして、ご意見等を賜り、さらに詳細な施設の構想について進めていきたい。 ・次回は来年度秋ごろ案内予定 <p>当会の閉会</p>